令和８年度　佐賀大学夏休み学童保育 with カッチー教室　実施レポート

実施趣旨

近年、共働き家庭の増加により、就学児童の放課後および長期休みの過ごし方に課題を抱える保護者が増えています。そうした課題解決の一助として、令和元年度より、学内での学童保育を企画・実施しています。

学内学童保育の実施によって、本学教職員のこどもたちに安全で安心な居場所を提供するとともに、保護者である教職員が安心して業務に取り組める環境づくりにつながっています。また、保護者がこどもと一緒に出勤・退勤できるため利便性が高く、こどもにとって保護者の働く職場を身近に感じる機会となっています。

佐賀大学ダイバーシティ推進室は、教職員のワークライフバランスの充実と大学の資源を活かした「学童保育」として、「夏休み学童保育 with カッチー教室」 を小学生の夏休み期間中である 2026 年 7 月 22 日（水）～24 日（金）の 3 日間、実施しました。

参加児童総数は 42 名でした。学年は、1 年生 9 名、2 年生 4 名、3 年生 8 名、4 年生 6 名、5 年生 10 名、6 年生 5 名でした（女児 23 名、男児 19 名）。申込者（保護者である佐賀大学教職員）は、29 名でした（教員 6 名、職員 23 名；女性 15 名、男性 14 名）。

7 月 22 日(水)

【朝の会】 学童保育初日。参加児童たちに少し緊張した様子も見られる中、ダイバーシティ推進室の荒木室長より、開会のあいさつがありました。その後、保護者が働く佐賀大学についてクイズを交えながら紹介しました。また、学童保育期間中のスケジュールや過ごし方、ルールについてもみんなで確認しました。

7月22日(水) 午前

【カッチー教室①】ひかりのえあそび！つくってのこそう！

佐賀大学美術館　五十嵐　純　学芸員
井上　寧々　美術館職員
黒木　幸代　係長

美術館では、五十嵐学芸員と美術館スタッフの皆さまのご指導・ご協力のもと、日光写真とフォトフレームの制作活動を行いました。

日光写真では、美術館周辺に植えられているハーブや植物を採取し、小物などと組み合わせながら感光紙（青写真用の特殊な紙）の上に配置しました。その後、太陽の光に当てることで、光が当たった部分と植物などで光が遮られた部分に模様が生まれ、現像すると青と白の美しい図柄が浮かび上がります。植物の形や重ね方によって仕上がりが変わるため、「どんな模様になるかな」と完成を楽しみにしながら、たくさんの作品を制作しました。

また、出来上がった日光写真を飾るためのフォトフレーム作りにも取り組みました。自宅から持ってきた飾りやシールを貼ったり、絵の具で好きな色を塗ったりするなど、それぞれが工夫を凝らし、個性あふれる作品に仕上げていました。

展覧会の合間の設備メンテナンスで休館中の美術館はとても広々とした空間となっており、参加者は開放的な雰囲気の中で、のびのびと創作活動を楽しむことができました。

7月22日(水)

午後 【カッチー教室②】 五感のふしぎとみみ･はな･のどの仕組み

医学部 杉山 庸一郎 先生
佐藤 有紀 先生
柳谷 諒子 先生

午後はバスで移動して鍋島キャンパスに向かいました。医学部耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学の杉山先生からはのど、佐藤先生からは鼻、柳谷先生からは耳について、先生方のご専門ごとに、それぞれの役割や仕組みを分かりやすく教えていただきました。

学習の後には、匂い当てクイズや五味当てクイズ、糸電話作りを行いました。匂い当てクイズでは、スティック型の香料を嗅ぎ比べ、メントール成分が入った香りを当てることに挑戦しました。「こっちがスースーする！」と楽しそうに取り組む姿が見られました。

五味当てクイズでは、少量の溶液を実際に味わいながら、苦味・塩味・甘味・旨味・酸味を当てることに挑戦しました。特に旨味の溶液を味わった際には、「おいしい！」「おかわり！」という声が上がっていました。糸電話作りでは、思い思いにシールやイラストで飾り付けを行いました。完成後は友達同士で離れた場所から話しかけ、音が伝わる仕組みを体験していました。

耳鼻咽喉科は、こどもたちにとって小さい頃から受診する機会が多く、身近な診療科の一つです。今回の活動を通して、耳・鼻・のどの働きや不調時の対処方法について楽しく学び、また自分の体への理解を深める機会となりました。

7月23日(木) 午前

【カッチー教室③】ミクロの世界をのぞいてみよう！

農学部 山中 賢一 先生

農学部の山中先生のご指導のもと、顕微鏡を使って身近なものを観察する活動を行いました。今回、顕微鏡を初めて使用する子も多く、実験室にずらりと並ぶ顕微鏡に興味津々の様子でした。

まず、塩・砂糖・片栗粉・クエン酸を顕微鏡で観察し、何を見ているのかを当てるクイズに挑戦しました。見た目はよく似た白い粉でも、顕微鏡で見ると形状が異なることに気づき、「全部白いのに形が違う！」と驚きながら観察していました。

次に、頬の内側の細胞を採取して自分の細胞を観察しました。「本当に自分の体の中にあったものなの？」「真ん中に黒い点がある！」などの声が上がり、自分の体がたくさんの細胞でできていることを学びました。

最後に、各自が家から持参したものや山中先生が準備してくれた約 100 種類の標本を自由に観察しました。葉っぱや布、髪の毛などを見ながら、「こんな模様になっているんだ！」と新たな発見を楽しむ姿が見られました。また、珍しい生物や植物の標本に興味を示し、夢中になって観察を続けていました。

最後に参加者全員にミクロ博士認定証が配布されました！顕微鏡を通して普段は見ることのできないミクロの世界を体験し、友達と発見を共有しながら、科学への興味・関心を深めることが出来ました。

7月23日(木) 午後

【カッチー教室④】 不思議がいっぱい！血液のヒミツ

佐賀県学生献血推進協議会 ～ちっち～

佐賀県学生献血推進協議会～ちっち～の皆さんを講師に迎え、献血や血液について学ぶ体験活動を行いました。はじめに「献血は何歳からできる？」「採血した血液はどのくらい保存できる？」などのクイズを通して、献血や血液の大切さについて学びました。クイズに対して、こどもたちからは、「そうなんだ！」「知らなかった！」と驚きの声も上がっていました。

その後は、スライムを使った「血液パックキーホルダー」作りに挑戦しました。洗濯のりやホウ砂などを混ぜ合わせてスライムを作った後、食用色素（赤・青・緑・黄）を混ぜて、自分だけのオリジナルキーホルダーを作りました。スライム作りが始まると、会場の雰囲気は一気に盛り上がり、「もっと色を混ぜてみよう！」「きれいな色ができた！」と夢中になってスライム作りを楽しんでいました。各テーブルでは個性あふれるスライムが次々と完成し、どの子も時間を忘れて取り組んでいました。献血について学ぶ活動が、気が付けばスライム作りが主役となってしまっていましたが、それだけこどもたちが楽しんでくれたということかもしれません。楽しみながら献血や血液の大切さについて知ることができました。

7月23日(木) 夕方

【カッチー教室⑤】ぽけらくしょんサマーパーティー

学生サークル ぽけらくしょん

学生サークルぽけらくしょんの協力のもと、みんなで楽しめる「イロトカタチ」というゲームを行いました。このゲームは、お題となったポケモンの特徴を色紙の組み合わせで表現し、それが何のポケモンかをチーム内で当てるゲームです。「その色ならあのポケモンかな？」「いや、こっちじゃない？」と、こどもたちはチームで相談しながら大盛り上がり。ポケモンの知識だけでなく、観察力や発想力も試されるゲームで、正解がわかるたびに歓声が上がっていました。ポケモンに詳しい子はもちろん、あまり詳しくない子も自然と会話に参加しながら楽しむことができました。

ゲームの後は、大学生や友達同士でポケモンカードバトルを楽しみました。白熱したバトルがあちらこちらで繰り広げられ、大学生との対戦で勝利して喜ぶ姿も見られました。

この日を心待ちにしていた子の中には、「全身ポケモンコーデ」で参加してくれた子もいました。改めて、こどもたちのポケモン人気の高さを実感するとともに、共通の「好き」を通して交流が広がる楽しい時間となりました。

7月24日(金) 朝

【朝の会】佐賀大学長との交流

野出　孝一　佐賀大学長

特別企画として、朝の会に野出学長をお迎えしました。

こども達は少し緊張した様子でしたが、学長あいさつが始まるとすぐに和み、質問コーナーではたくさんの手が挙がりました。「好きなラーメンは何ですか？」「好きな野球チームは何ですか？」など、こども達ならではの素朴な質問が次々と飛び出し、野出学長もひとつひとつ丁寧に答えてくださいました。

また、「大学ってどんなところ？」「どんな勉強をしているの？」といった質問も寄せられ、こども達にとって大学を身近に感じる貴重な機会となりました。学長も終始笑顔でこども達と交流され、こども達にとって思い出に残る時間となりました。

7月24日(金) 午前

【カッチー教室⑥】心に残る算数体験 －算数･数学サロン－

教育学部 大林 将呉 先生
学校教育学研究科 米田 重和 先生

教育学部の大林先生と学校教育学研究科の米田先生にご準備いただいた「心に残る算数体験 －算数・数学サロン－」では、こどもたちが算数の問題に夢中で取り組みました。

会場には11ブースが設置され､自分の興味に合わせて好きなブースを選んで参加します。各ブースには､「数のいもむし」「数の石垣」「かたちづくり」「キツツキの木」「イナズマ計算」など思わず挑戦してみたくなるユニークな名前が付けられており､それぞれに工夫を凝らした問題が用意されていました。ブースを担当する学生さんによる説明やサポートを受けながら、こどもたちは試行錯誤を重ね、一生懸命に問題を解いていました。

驚いたことに､途中で飽きたり､離脱してしまったりする子はおらず､多くのこども達が熱心に問題に向き合っていました｡算数は嫌いと言っていた小学2年生に感想を聞くと｢え､これ算数だったの!?おもしろかった！｣という声も。遊びやパズルに取り組むような感覚で､算数に親しむことができたようです。こどもたちにとって､算数の楽しさや面白さを発見し､「もっとやってみたい」という気持ちにつながる貴重な機会となりました。

※算数・数学サロンを考案し、各地で取り組まれている山本信也先生（熊本大学名誉教授）も熊本から見学に来てくださいました。

【カッチー教室⑦】わくわくモルックチャレンジ！カッチー杯

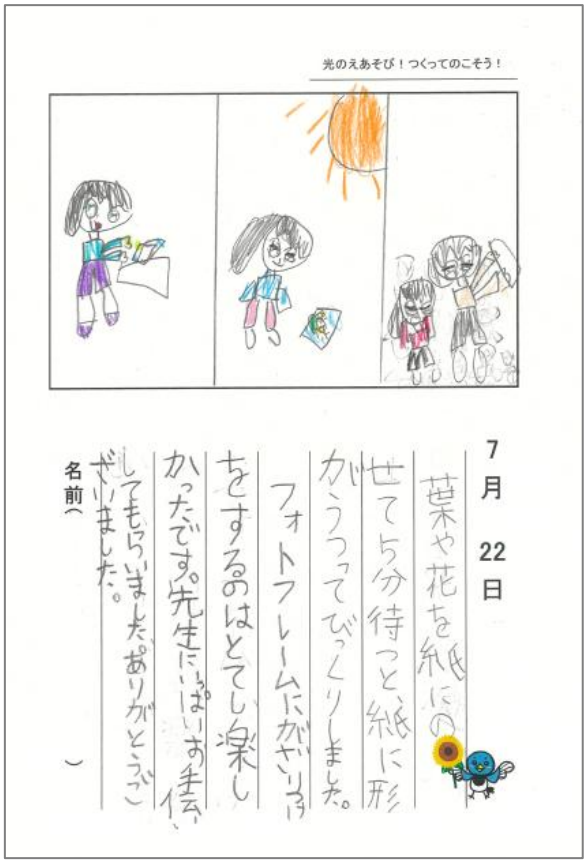
モルックサークル Two Fifty

カッチー教室の最後は、参加者全員でモルックを楽しみました。モルックサークル Two Fifty のメンバーから、実演を交えながらモルックのルールを教えてもらいました。ルールはいたってシンプルで、棒（モルック）を投げて、12 本の木製のピン（スキットル）を倒します。スキットルが 1 本だけ倒れた場合は、そのスキットルに書かれている数字が得点となります。一方、複数のスキットルが倒れた場合は、倒れた本数が得点（12 本倒れたら 12 点）として加算されます。

カッチー杯では、2 チームごとの対戦で 50 点を先取したチームが勝利とし、リーグ戦でゲームを行いました。ゲームが始まると、こども達は真剣な表情で狙いを定めてモルックを投げ、「あと◯点！」「もっと右！」「がんばれ！」とチームメイト同士で声を掛け合いながら競技を楽しんでいました。初めてモルックを体験するこども達もゲームを重ねるごとにコツをつかみ、見事な一投を決めて大きな歓声があがる場面も！どのチームも白熱した勝負を繰り広げた結果、得点上位の 3 チームに賞品が贈られました。

カッチー杯の名のとおり、最後には佐賀大学公式マスコットキャラクター「カッチーくん」が遊びに来てくれました。カッチーくんが現れると、こども達も大興奮！一緒に記念撮影をしたり、触れ合ったり楽しい時間を過ごし、思い出に残る最終日となりました。

学童保育終了後、こどもたちには日記を書いてもらい、ご協力いただいた先生方にお渡ししました。


光のえあそび！つくってのこそう！

7月22日

葉や花を紙にのせて5分待つと、紙に形がうつってびっくりしました。フォトフレームにかざりつけをするのはとても楽しかったです。先生にはいお手伝いしてもらいましたありがとうございました。

名前（　　）

五感のふしぎとみみ・はな・のどの仕組み

7月22日

医学部では、五感のみみ・はなのどのことを少し教えてもらいました。

はなのことを教えてもらう時はとちらのほうがいいかえとうおのカメとうしました。かみのことを教えてもらう時はどちらのほうがいいかえとうおのカメとうしました。

名前（　　）

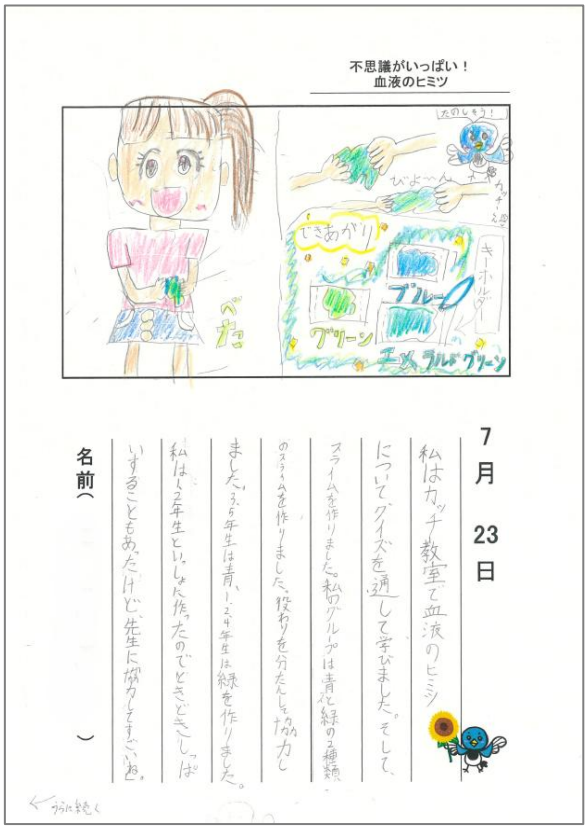
ミクロの世界をのぞいてみよう！

7月23日

ミクロの世界をのぞいてみようでは、自分の細ぼうを見るためにたくさんおもしろかったです。

ほかにもいろいろなものをみるとけんびきょうでは知らなかったことが知れたりするのでとてもおもしろかったです。

名前（　　）

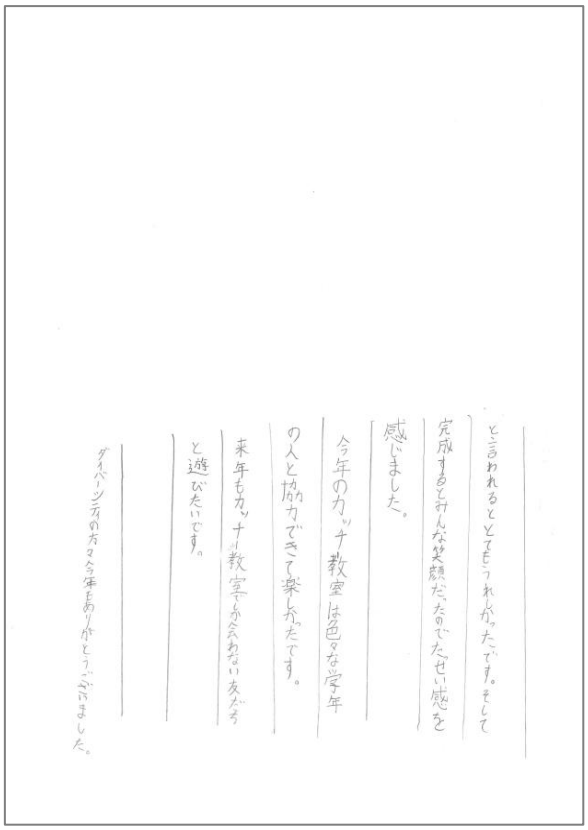


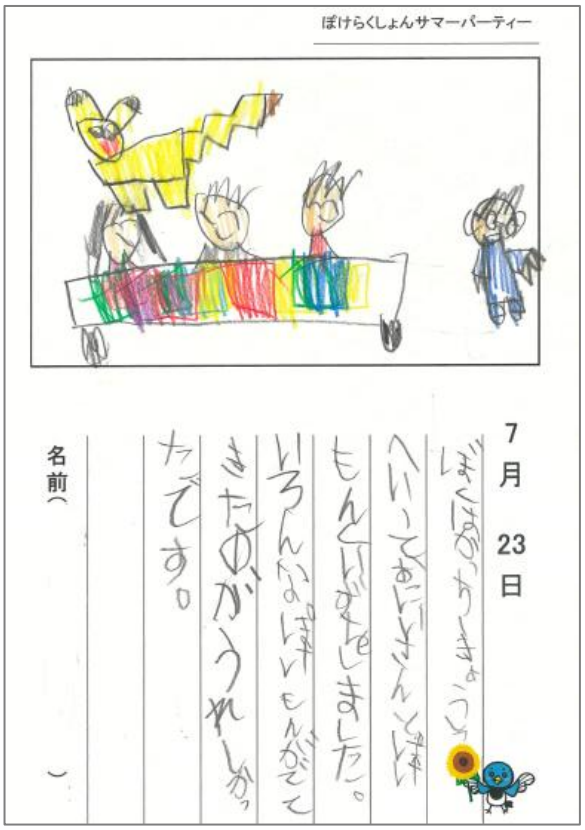
7月23日

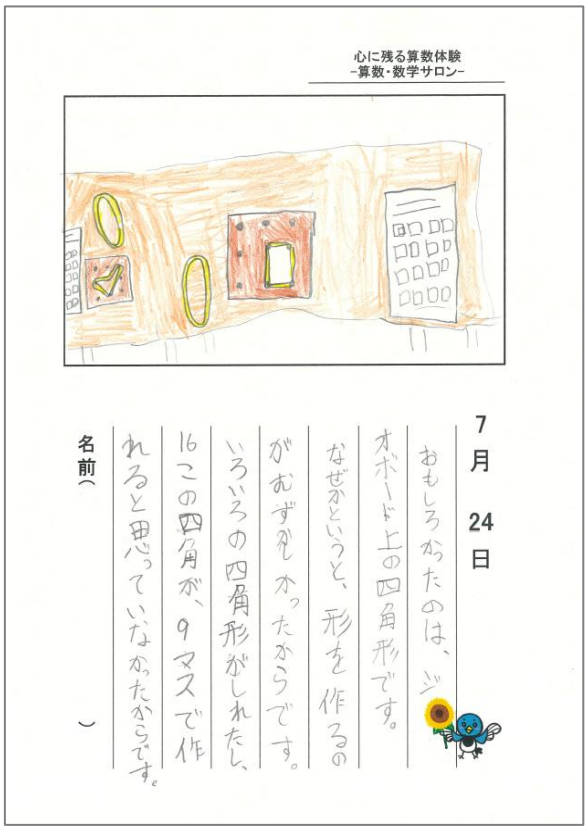
私はカッナ教室で血液のヒミツについてクイズを通して学びました。そして、スライムを作りました。私のグループは青と緑の種類のスライムを作りました。役わりを分たんして協力しました。3・5年生は青、1・2・4年生は緑を作りました。

私は1・2年生といっしょに作ったのでとてもたのしかったです。

名前（　　）







佐賀大学ダイバーシティ推進室では引き続き、教職員のワークライフバランスの充実に向け様々な活動に取り組んでいきます